

明治学院大学キリスト教研究所主催
レクチャーコンサート

18世紀ドイツの 教会音楽



■出演

Soprano

鈴木美登里

Tenor

クヌート・シヨホ

Violin

大西 律子

Organ

安積 道也

■講師

Lecturer

加藤 拓未

(本学キリスト教研究所協力研究員)

2014年 2月17日(月)

18:30 開場 19:00 開演 入場無料 (予約・申込不要)

明治学院大学白金校舎礼拝堂(チャペル)

◎お問合せ

主催：明治学院大学キリスト教研究所 東京都港区白金台1-2-37 (電話) 03-5421-5210

今回のレクチャーコンサートでは、豪華メンバーによる演奏を交えながら 18 世紀ドイツの教会音楽を概観してゆきます。J.S.バッハを中心に、バッハに影響を与えた作曲家の作品、さらにバッハの弟子ホミリウスを中心にして 18 世紀後半の教会音楽にも言及してゆきます。

明治学院大学キリスト教協力研究員 加藤 拓未(音楽学)

■クヌート・シヨホ(テノール)

ドイツ・ハンブルク出身のテノール歌手。1999 年にブルージュ国際古楽コンクールで受賞。レパートリーは中世の作品から現代曲まで多岐にわたるが、なかでもオラトリオとバロック・古典派時代のオペラを得意とする。特にヘンデル作品の演奏様式研究には力を入れており、またバッハのマタイ・ヨハネ両受難曲の福音史家としては他の追従を許さない。歌曲の演奏にも積極的で、ルドガー・レミー、ノーマン・シェトラーらの協力のもと、ペーターヴェンやシューベルトをはじめプリテンの作品にいたるまで幅広くとりくんでいる。

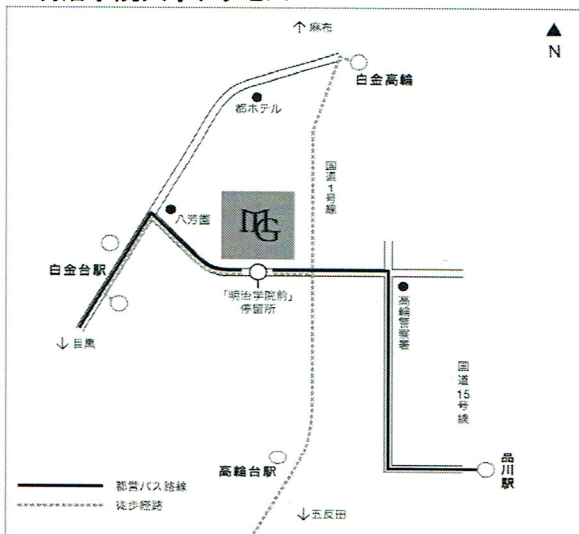
バイエルン州立歌劇場、ボン歌劇場、ゲッティンゲン・ヘンデル記念演奏会、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ(フランス)、ウィーン祝祭週間など、ドイツ国内外の主要な音楽祭や劇場に出演。シグスヴァルト・クイケン、トン・コープマン、トーマス・ヘンゲルブロック、グスタフ・レオンハルトといった著名な指揮者からの信頼も厚く、共演を重ねている。数多くの録音に参加しており、ドイツ・ハルモニア・ムンディ、CPO、プリリアント・レコーズ、ナクソスなど各社からリリースされている 100 点以上の CD にソリストとしてクレジットされている。ハンブルク音楽大学教授(1999~2002 年)を経て、現在、ハンブルク音楽院教授。

■大西律子(ヴァイオリン)

東京都出身。4 歳でヴァイオリンを始める。桐朋学園大学附属子供の為の音楽教室市川分室、国立音楽大学附属音楽高等学校を経て国立音楽大学を卒業。その後、バロック・ヴァイオリンも弾き始め、第 14 回古楽コンクール(山梨)第 3 位入賞。

「カンタータ・ムジカ・Tokyo」「Millennium Bach Ensemble」「モーツァルト・アカデミー・トウキョウ」「ヨハネス・カントレス」のコンサートマスター、「国分寺チェンバーオーケストラ」の弦楽器トレーナーなど、古楽・モダンを問わず様々な室内楽グループやオーケストラで活動中。国立音楽大学非常勤講師。

■明治学院大学アクセス



東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「白金高輪」駅・「白金台」駅より/都営浅草線「高輪台」駅より それぞれ徒歩7分

[都営バス]JR品川駅より「目黒駅前」行「明治学院前」下車
JR目黒駅より「大井競馬場前」行「明治学院前」下車

■鈴木美登里(ソプラノ)

神戸に生まれる。京都市立芸術大学声楽科及び同大学院修了。京都音楽協会賞受賞。ドイツリート分野では、佐々木成子、中山侑一、鳥井晴子、三井ツヤ子に、イタリアオペラをアンドレア・バランドーニの各師に師事。

在学中より興味を抱いていた古楽分野の研鑽を深めるため、兵庫県芸術文化海外留学助成金を受けオランダに留学。アムステルダム古楽アカデミーにおいて、バロック期のソロ声楽をマックス・ファン・エグモント氏、ブラバント音楽院において、グレゴリオ聖歌からバロック期に至る声楽アンサンブルをレベッカ・スチュワート女史に師事。ディプロマを取得した後アンサンブル「ラ・プリマヴェーラ」のメンバーとしてオランダを中心に演奏活動を行う。留学中より「ラ・プティット・バンド」「バッハ・コレギウム・ジャパン」のソリストとして国内外のコンサートツアー及びレコーディング活動に参加。

2000 年に帰国してからは、ソロ活動の他、中世・ルネサンス・初期バロック期の声楽アンサンブルの研究に力を注ぎ、コンサートや講習会など積極的な活動を展開している。2002 年、日本では数少ないマドリガーレ・アンサンブル「ラ・フォンテヴェルデ」を立ち上げ、年に 2 回の定期演奏会とクリスマスコンサートなど着実な活動を行なっている。

■安積道也(オルガン)

明治学院大学心理学科卒業後渡独。シュトゥットガルトおよびフライブルグ国立音楽大学にてオルガン科ディプロム、教会音楽科 A 課程ならびに大学院指揮科を最優秀で修了。ドイツ国家資格教会音楽家(カントール)最高位取得。2004 年第一回バイロイト・レーゲンスブルク合唱指揮者コンクール優勝。2007 年アルテンベルク国際オルガン即興アカデミー・ファイナルコンサートプレイヤー。在独中ギュンタースタル聖マリア教会音楽監督、ドイツフランス合唱団常任指揮者を兼任。

2009 年、福岡で西南学院音楽主事/正オルガニストに就任。西南学院の音楽事業を手がける傍ら、指揮者・オルガニスト・通奏低音奏者として、国内外の各地で演奏・指導を行なっている。西南学院オラトリオ・アカデミー常任指揮者。

これまでに、オルガンを J. ラウクビック、H. ドイツュ、通奏低音・チェンバロを R. ヒル、M. ベーリンガー、音楽理論・作曲法を O. ビュージング、K. フェスマン合唱指揮を M. シュルト・イェンセン、H.M. ボイヤレ、オーケストラ指揮法を S. サンドマイヤー、声楽を E.B. ヒレマンの各氏に師事。

■加藤拓未(解説)

音楽学者。博士(芸術学)。国立音楽大学大学院修了(音楽学専攻)。明治学院大学大学院博士後期課程修了。専門はドイツ・バロックを中心とする西洋音楽史(特に受難曲やオラトリオの歴史)。

NHK-FM「バロックの森」(2004~10 年、レギュラー出演)、「サンデークラシック」、「ベストオブクラシック」や NHK-BS「クラシック倶楽部」に解説者として出演。2006~07 年、ハンブルク大学音楽学研究所留学。2011 年、G.Ph.テレマンの受難曲に関する研究で明治学院大学より博士号を授与。国立音楽大学音楽研究所ペーターヴェン研究部門研究員、明治学院百五十年史編集委員を歴任。

日本の洋楽受容に関する研究も精力的に行っており、2012 年 11 月に日本最初のオラトリオ作品、安部正義(作曲)オラトリオ《ヨブ》に関するレクチャーコンサートを企画監修し、好評を博した。共著に『バッハ・キーワード事典』(春秋社)、『バッハ——古楽器でもモダンでも!』(河出書房)などがある。現在、明治学院大学キリスト教研究所協力研究員、同大学非常勤講師、明治学院歴史資料館研究調査員、バッハ・ヘンデル研究会代表。